

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第131号(2018. 2. 1)
事務局 川西地区自主防災会

工学部から創造工学部へ —デザイン思考とリスクマネジメントで未来を創造—

香川大学工学部教授・工学部長 長谷川修一

昨年12月9日に香川大学林町キャンパスで香川県初の弾道ミサイルを想定した住民避難訓練が実施されました。当日は、弾道ミサイルが我が国に飛来する可能性があるとの情報伝達を受けて、学生や住民等約250人が屋内の避難先に避難し、窓から離れる等の身を守る措置を行いました。1年前には大学でこのような訓練をするようになるとは予想していませんでしたが、今年はオリンピック・パラリンピック終了後に危機的な事態になることも想定しないとイケない危機管理の時代に突入したと気を引き締めています。



香川大学では、平成30年4月から工学部を母体に新設された創造工学部が第1期生を受け入れます。創造工学部の前身である工学部は、平成9年10月に創設され、平成10年4月から新入生の受入を始めて、20年経過しました。香川大学工学部の創設のコンセプトは文理融合の工学教育でした。なぜ文理融合かというと、工業化の時代にはテクニカル・スキルが求められ、縦割りの専門教育が行われてきました。しかし、専門知識や専門技術のようなテクニカル・スキルを身につけるだけでは技術者は、社会に出てから通用しません。仕事には相手があり、仕事はチームで行われるので、コミュニケーション能力等のヒューマン・スキルそして文系的な素養も技術者には不可欠です。

しかし、今や人工知能(AI)の時代です。人工知能の時代には、これまで技術者が担っていた役割が人工知能で置き換えられるかもしれません。また日本の強みであったものづくりも、日本発の世界的ヒット商品が出ないなど、曲がり角に来ています。さらに、日本が燃費で優位に立っていた自動車産業も、EVシフトという世界戦略によって窮地に立たされようとしています。未来はこれまでの延長線上にはない時代になっています。さらに、日本には巨大地震災害だけでなく地政学的なリスクへの対応も求められています。

次世代を担う技術には、高度な情報処理技術や数理処理技術だけでなく、更にどのようなモノが必要なのか、どのような社会にしたら幸せになるのかというコンセプトを創り出すことができるデザイン能力が必要となります。しかし、新しいビジョンを

現実化しようとする、様々な障害や危機に直面するので、リスクマネジメント能力も不可欠です。そこで香川大学では、テクニカル・スキルとヒューマン・スキルだけでなく、コンセプショナル・スキルとしてデザイン思考とリスクマネジメントの素養を持つ次世代型人材を育成するため創造工学部を新設しました。

創造工学部では、工学部の4学科を1学科7コースに再編し、防災・危機管理コースを新設しました(図1)。防災・危機管理コースでは、不測の天災、人災を予見し、大難を小難に減災できる人材の育成を目指していますので、これからもご支援・連携よろしくお願ひ申し上げます。



図1 香川大学創造工学部の教育体系

1. 九州北部豪雨の被災地、大分県の日田市において

九州北部豪雨の被災地、大分県の日田市において H29. 自主防災実践懇談会が 1 月 18 日（木）に開催され、九州大学の小松名誉教授の紹介を得て出席することになり、その内容等を紹介したい。

- ・ 豪雨を受けての住民意識調査のアンケート報告
- ・ H29. 7. 5 九州北部豪雨を振りかえって
- ・ 日田市内の自治会の防災組織の取り組み紹介

お話を伺っていると、H24 年にも豪雨被害を受けており、防災への意識が高く、どの自治会も弱者の救済を最初に行い、避難所までの誘導や避難方法などを指導している反面、自治会未加入の新住民への対応などに不安を感じた。特に新住民への情報伝達に大きな課題を残している。



又、避難生活において、トイレ環境が悪く、危険を承知のうえ自宅に帰って用を足す住民が多かったのが目を引いた。

2. ざぶん賞 2017 表彰式を行なう。

かがわ自主ぼうの多くの役員に無理を言って、「ざぶん」賞のお世話をさせていただいておりますが、このたび中国・四国実行委員会の主催によって 1 月 27 日（土）14.00 から高松サンポートにある「e-とぴあかがわ」において、「表彰式」と月尾嘉男東大名誉教授による「ざぶん塾」を開催しました。

本年度は実行委員皆様の力強い活動によって、香川県内の応募数は 2016 年の約 5 倍という素晴らしい結果となったうえに、準ざぶん大賞や環境賞、更には特別賞と多くの賞

をいただきました。また、県内優秀作品には、知事賞、教育長賞、更に県環境森林部長賞を設けています。



尚、ざぶん賞とは、自然を大切にする青少年を育成する目的で小中学生に水をテーマにした作文を募集し、優秀作品を表彰しています。始まりはジャーナリスト築紫哲也氏が実行委員長、2004年から月尾嘉男氏が実行委員長、審査委員長に作家阿部龍太郎氏が就いております。

編集後記

今月の防災・減災の輪は、香川大学工学部教授・工学部長 長谷川修一先生の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。